

大牟田市立平原小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、27年前に中国大同市第十八小学校と友好交流校を締結し、毎年正月や春節を祝い合うプレゼントの交換を行っている。また、学習内容を充実させるために、中国からの留学生との交流を位置づけ、中国の自然や文化、生活の様子や春節について話をさせていただいたところである。

昨年度は文部科学省から消費者教育推進のための調査研究事業の委託を受け、実践を行ってきたが、本年度は大牟田市の指定を受け、ESDに消費者教育の視点を位置づけた研究授業をさらに充実させてきた。消費者教育の視点では、特に、物事を多面的・客観的に捉えるために必要な批判的思考力（クリティカル・シンキング）を身に付けた子どもの育成に力を注いでいる。そこで、本校のESDは消費者教育を中心に、国際理解教育・福祉教育・環境教育などを学年の発達段階に応じて取り組んでいる。

また、どの学習においても、「人・もの・こと」に進んではたらきかけ、つながりの中から課題を見つけ自力解決し、行動に結びつけていくことに重点を置いてきた。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 国際理解教育

① 5, 6年生の環境に関する授業

- ・毎年、中国大同市代表団が来校され、5, 6年生の環境学習を公開している。

② 全学年の共通した学習

- ・留学生との交流
(1, 2年生と3～6年生の2グループに分かれ、中国の文化や春節についての学習を行った。)
- ・中国の春節に合わせたお祝いのカードやプレゼントを作成して贈る。

(2) 消費者教育を意識した各学年の主な学習内容

- ・1年生「ひろがれえがお」 (生活科 10月～11月 10時間)
- ・2年生「あそび大すきあつまれ」
(生活科 9月～10月 17時間)
- ・3年生「お年寄りの生活に触れ、自分ができることを考え行動しよう」
(総合的な学習の時間 9月～11月 21時間)
- ・4年生「2分の1成人式をしよう」
(総合的な学習の時間 1月～2月 16時間)
- ・5年生「環境問題について考え、発信しよう」
(総合的な学習の時間 9月～12月 23時間)
- ・6年生「夢をさがそう」 (総合的な学習の時間 9月～11月 18時間)

3 特徴的な活動事例

< 3年生 総合的な学習の時間 21時間

「お年寄りの生活に触れ、自分ができることを考え行動しよう」>

(1) 目標

- ・お年寄りの気持ちを考えて一緒に楽しめるような交流会をするために、お年寄りの視点に立ってどんな工夫をすればよいのか考え、交流を深めていくことができる。
(問題解決の能力)
- ・地域の公民館に集うお年寄りとの触れあいに関心をもち、必要な情報を祖父母や家族の人たちにたずねながら、相手の立場に立った交流会や訪問をすることができる。
(主体的な態度)
- ・相手の気持ちを考えた交流会を通して、さらに深くお年寄りの方と親しく関わるために自分ができることを考えたり行動したりすることができる。(自己の生き方)

(2) 実践の展開

①「1回目の訪問に向けて」…7時間

「ふれ合い敬老会」参加後、会に参加できなかったお年寄りの方がいることを知り、自分たちにできることはないかを考えた。そして、自分たちが地域の公民館に出かけ、1回目の交流を行った。



②「お年寄りを助けたい」…9時間

交流をしたお年寄りの方達が「ニセ電話詐欺」などに巻き込まれ、悲しい思いをしていることを知る。自分達に何ができるかをGTの方に相談しながら考えた。詐欺に巻き込まれないポイントを2回目の交流会で劇で表したり、プリントして配布したりした。



③「お一人暮らしの方への訪問」…5時間

自分達の校区には、独りで住んでいるお年寄りの方が多くいることを知る。その方々を「ニセ電話詐欺」から守りたい気持ちを持ち、同じように、詐欺に巻き込まれないポイントのプリントやお花を1ポットずつ用意し、民生委員さんと一緒に訪問し、プレゼントした。その後、学習をまとめ他学年に発信した。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・3年生の実践では、敬老会参加から始まり、楽しい交流と助けたい交流、一人暮らしの方との交流と3つのステージに別れ、それぞれで子ども達自身が課題を見つけやすいように学習が進んでいくことは良かった。ストーリー性は必要である。
- ・消費者教育を進めるうえで必要な力、批判的思考力(クリティカル・シンキング)を全職員が共通理解し、どの教科においても意識的に授業を行ったので、物事を多面的・客観的に捉える児童が増えた。

○課題

- ・生活科や総合的な学習の時間では、消費者教育に加え、国際理解教育、環境教育、福祉教育と学年によって様々な内容があるので、1年毎の細切れでなく、2年計画位で学習を深めていく必要がある。また、学年によっては、もう一度児童の発達段階を考慮し、内容の見直しが必要である。